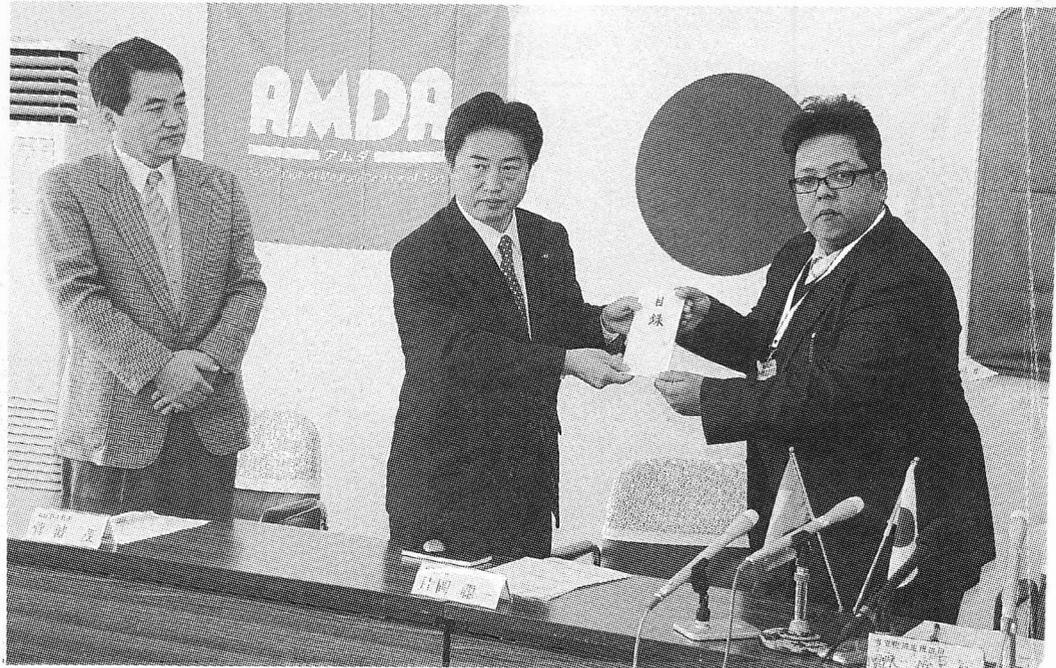


ブラジル洪水で緊急支援 総社市・AMDAが合同実施

総社市と国際医療ボランティア組織のAMDA(菅波茂代表)は17日、ブラジル洪水の被災者を支援する緊急支援活動を合同で実施すると発表しました。同市職員とAMDAの看護師2人を、18日から2週間派遣する。

派遣するのは、ブラジル出身で同市嘱託職員の譚俊偉(たんしゅんわい)さん(37)と、AMDA看護師の石岡未和さん(30)。

譚さんは、リオデジャネイ



ロ市の救助活動団体と接触し、被災者のニーズを聞き出す。総社市国際名誉顧問の方ストロ・ネーベス駐日ブラジル大使も訪れる。

石岡さんは避難場所や必要な医療体制について調査。状況に応じて、多国籍医療チームの派遣も要請する。

同市とAMDAは09年6月、多文化共生や国際貢献活動推進の協定を締結。人的援助の合同実施は、菅波茂AMDA代表が要請した。

出発に先立ち、総社市などが集めた義援金87万円を、片岡聡一市長らが譚さんに託し、激励した。

譚さんは「総社在住ブラジル人代表として胸を張って、被災者を支援したい」と決意を語った。

ブラジル南東部では、11日からの集中豪雨で死者500人以上、被災者1万4千人以上出ており、救援活動も難航しているという。